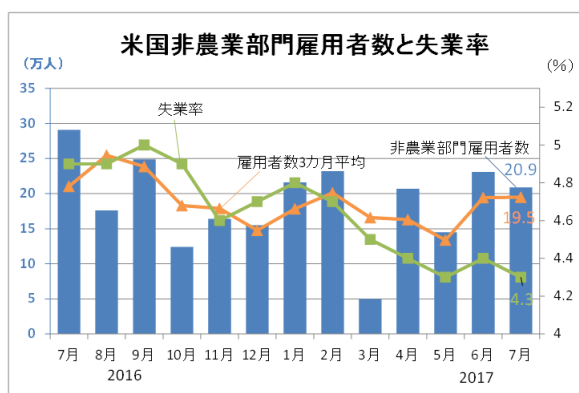


## 米7月雇用統計レビュー

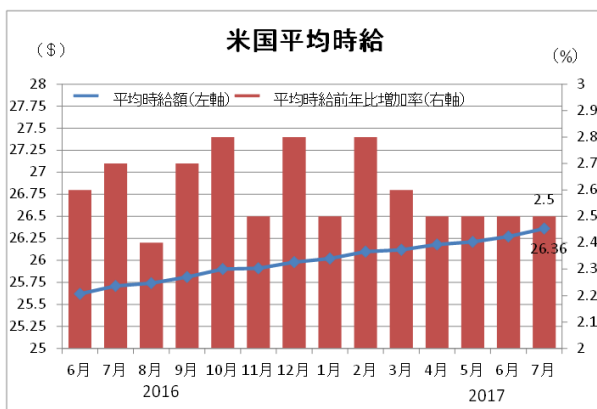
米労働省が8月4日に発表した7月雇用統計の主な結果は、①非農業部門雇用者数20.9万人増、②失業率4.3%、③平均時給26.36ドル(前月比0.3%増、前年比2.5%増)という内容であった。

①7月非農業部門雇用者数は市場予想(18.0万人増)を上回る20.9万人増となり、前月の23.1万人増から減速したが、前月分と前々月分が上方修正された事もあって、3ヶ月平均の増加幅は19.5万人へと小幅に加速した。民間部門の幅広い業種で雇用者の増加が確認されており、米雇用市場の堅調さを裏付ける結果となった。

②7月失業率は市場予想どおりに4.3%に低下し、5月に記録した約16年ぶりの低水準に並んだ。また、労働参加率が62.9%に上昇したにも関わらず失業率が低下しており、求職者が増える中で失業者が減少した可能性を示唆す好内容と言えるだろう。



③7月平均時給は26.36ドルとなり、前月の26.27ドルから0.3%増加。前年比では4カ月連続で2.5%増となった。なお、市場予想は前月比が0.3%増、前年比が2.4%増であった。米労働市場では緩やかな賃金上昇が続いている事が確認された。米国のインフレ加速を想起させるほどの強さではなかったが、過度な低インフレ懸念は後退したと見られる。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

米7月雇用統計は、全体的に見て良好な結果と言えそうだ。賃金の伸びには若干の物足りなさも残るが、失業率が歴史的な水準に低下し、人手不足感も出始める中であって、雇用の増加ペースが高水準を維持したのは心強い動きだろう。今後、賃金に上昇圧力がかかり、それに沿ってインフレも上昇すると米連邦準備制度理事会(FRB)の見通しに変化はないだろう。市場は、この雇用統計の発表を受けて、ドル高、株高のポジティブな反応を示し、米国債は安全資産としての投資妙味が薄れるとの見方から下落(長期金利上昇)した。なお、コーン米国家経済会議(NEC)委員長は、「トランプノミクス(トランプ大統領の経済政策)が米国民を労働力として呼び戻している」「それはまさに大統領が実行すると表明していた事だ」と述べて、米7月雇用統計の好結果を歓迎した。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com